



高南中学校 CS だより

(杉並区立高南中学校 学校運営協議会広報紙 令和6年3月発行)

学校運営協議会制度を導入している学校（コミュニティ・スクール＝CS）となって6年目になりました。

「コミュニティ・スクールとして」

校長 立花 忠司

本校は平成30年4月にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）となり、今年度で6年目を迎えました。コミュニティ・スクールとは、学校と地域が力を合わせて学校運営に取り組むことが可能になる「地域とともにある学校」への転換を図るためのしくみです。このコミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めることができるしくみになっています。

本校でもこれまでの6年間、学校運営協議会からさまざまな御意見をいただき、学校運営の改善を図ってきました。また、学校運営協議会と両輪の関係にある学校支援本部「高南会」が、学校の課題解決のために様々な事業を展開していただいています。

これからも、高南中学校がまさに「地域とともにある学校」となるよう、地域の声を大切にして学校経営を行なっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします



「6年目の学校運営協議会」

高南中学校学校運営協議会会長 堀内 一男

能登半島地震は、共に学び、励まし合い、時には喧嘩もする友達と一緒に生活し、それを温かく、厳しくみつめて指導いただける先生方がいらっしゃることに幸せを感じ取らせてくれたのではないのでしょうか。

今年度の学校運営協議会は、新しい委員を迎え、運動会・合唱祭、公開授業等の参観と9回の協議会を開催し、高南中の学校状況を見つめ、励まし、それぞれの立場からの意見を率直に述べて参りました。

生徒たちが情熱を傾け、全力投球する各種行事も予定通り実施でき、全国大会に臨んだテニス部等の部活動での活躍にも目を見張ることができました。

今年度の協議会活動で特に留意したことは、先生方や生徒たちとの直接の交流を多くとり入れたことと、こんな活動があればと取り組んだ「学校支援本部－高南会」による生徒の学習指導や日常生活等への具体的な援助活動です。高南中を学区とする全ての町会も高南中を愛し、応援しています。



CS委員からのメッセージ

～今年度の活動を終えて、CS 委員からの保護者、生徒の皆様へ～

「高南中生に語りかけたいこと・自分らしさを大切に」

「私は自分のことは自分で決めて、まわりにも思いやりをもてるような人になりたい。いくつになっても学ぶことはある。」と思いながら地域の中での自分の立場、学校に関わる難しさを何度か味わってきました。

この世界に1人しかいない自分、人それぞれ得意や苦手な事、身長が高い人、低い人、この世界に全く同じ人はいない。どんな人でも傷ついたり不安になったりとコンプレックスはある。でも、良いところも沢山あることに気付くことで自分にしか出せない独特の味になる。人と比べる必要はない。自分が自分らしくいられる場所作りや、悩みを話せる友達を沢山もって、日常生活の中で自分が決断する力を養ってほしいです。

地域の経験豊かな人達や高南中学校を囲む様々な大人の考え方に触れる機会が増え、尚一層豊かな心を育み自分らしさを大切に友情や思いやりの気持ちを持ち、人との良いきずなが生まれることを期待しています。

委員 小林 三津子



「命あるもの」

高南中学校の正門を入って階段を上がると右手に人工池があります。何年も前はホタルの飼育も行っていました。成虫になるとホタルは短い生涯を輝かせるように夜空を幻想的に彩って私達を楽しませてくれました。学校支援本部では早速地域の方や幼い子供たちに見せてあげようと公開のために準備をしました。沢山の方の“ありがとう”が聞かれました。

今は人工の池に金魚が泳いでいます。小さかった金魚は主事さんのお世話で餌やりやお掃除をしてもらい気持ちよく泳いでいます。輝かしいものは何もありませんが、毎日そこに穏やかに居てくれることはホッとする心の癒しになっています。おはよう！さよなら！今日も一日終わったね、また明日もがんばろう。生きている証がそこにあるから、私は励まされています。

ある日、3匹の金魚がお腹をふくらませて辛そうにしていました。卵を抱えているのかと思っていたら、どうやら病気だと言うことがわかりました。「腹水病」というらしい。治せる薬はないという。だんだん弱って、お腹を見せて浮いていることや沈んでいることも多くなりました。それでもトントンと刺激されれば少し泳いで石の陰や隅っこでじっとしています。金魚の頑張りが胸に響いて涙が出てきます。命あるもの、最後まで頑張る。「命をあきらめない」という姿を金魚は示してくれています。何事も最後まであきらめない、というメッセージを金魚の命から学びました。ありがとう！

委員 木村 房代

「耳を傾け・寄り添いながら」

学校支援本部「高南会」では、一年を通じて様々な事業を行なっています。

生徒たちが興味を持ち自分の意思で参加してもらえるように、先生方や委員と相談しながら活動しています。参加人数の少ない時は、ニーズに合っていないのではと悩み解決策を考え次回に繋げるようにしています。

ただ大人が一方向的に考えて行うことは、本当に生徒達の役に立っているのか、やっているよ！と押し付けになっていないのか？日々模索の連続です。学校では中々できないことを、地域として支援していくのが高南会の目的の一つでもあります。生徒が中心になっていなければ少しずつズレが生じてしまいます。

その点に注意をしながら、何気ない会話からもヒントがあるので、個性豊かな生徒達を置き去りにしないように積極的話しかけ、ひとりひとりに寄り添うことのできる高南会を目指し、今後も学校運営協議会と連携をしていきます。

保護者の皆さんも気軽に学校運営協議会や高南会にお声かけください。

委員 豊川 充子

「CS委員になって」

私の子どもは四人とも高南中を卒業しています。8年間続けてお世話になった高南中と私との関わりは、様々な行事、担任の先生との面談など全て我が子を通してのものでした。当時は小学校 PTA 活動に忙しく、高南中の PTA 活動は正直避けていました。昨年5月に学校運営協議会委員の一員として参加させていただくようになって、初めて客観的に高南中をよく知ろうとするようになりました。そして、生徒の皆さんがそれぞれの立場で生き生きと活動している姿、先生方と生徒の皆さんとの温かいつながり、地域の方々も含めて多くの人が高南中をより良い環境にしていこうと力を合わせていることなどを知り、心を動かされました。今では我が子の在籍していた8年間より高南中を身近に感じられるほどです。そして、今さらながら高南中で我が子が学校生活を送っていたことを嬉しく思います。きっと一人ひとりが自分なりに充実した日々を過ごしていたのだらうなと思います。これからも、高南中の素晴らしさを小さなことでもいろいろ見つけていけるようにしたいと思います。また、私自身も何かのお役に立てるよう、微力ではありますができる範囲で頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

委員 後藤 郁子



「CS委員になって感じたこと」

PTA 会長になり、いろいろな会議に出席する機会が多い一年でした。その中の一つである学校運営協議会（以下 CS）は校長、地域住民、保護者（PTA 会長）で構成されています。月に一度程度集まり、学校運営について話し合っています。先生や生徒会の生徒達が参加する回もあり、興味深い内容のお話を聞かせていただいています。

コロナ禍で休校や活動制限があったために子供たちにさまざまな影響があること、それを子供たちがうまく行えるように先生方が工夫して取り組んでいることなど、保護者の知らないところでよりよい学校運営のためにさまざまなことが行われています。ほとんどの保護者の方が CS をご存知ないかもしれません。どなたでも見ることが出来ますのでぜひいらしてみてください。

高南だよりに掲載の案内が載っています。高南中をよりよくするために学校運営に興味をもっていただければ幸いです。

委員 石橋 淳子

「生徒会役員との意見交換」

生徒会役員それぞれから、始めに、高南中でやってみたいことや、生徒会立候補時に掲げた立候補理由などを話してもらいました。部活タイアップの球技大会や、クラスマッチといった意見があって、運動だけではなく、ボードゲームやかるた（百人一首）といった球技以外の種目を取り入れたクラス対抗を、という意見もありました。

CS 委員から、高南中で実施されている、私服デーについて聞いたところ、話が広がり、服装だけでなく、髪型や標準服時の、「高南中生らしさ」の話を沢山してくれました。私服デーの自由度は、開催頻度やタイミングによっては、根本的なねらいと乖離しかねないとの意見も聞けたのは、「なるほどな」と感心した次第です。各々が持っている“ルールのボーダーライン”のようなことについて聞くことができましたが、私たち委員と近い「高南中生らしさ」に基準がある様で、共感できる大変有意義な意見交換会となりました。

学校の主役は、生徒だと思っています。当事者の思いに寄り添う学校運営協議会として、生徒会役員だけでなく、広く多くの高南中生と、意見交換の機会があるといいと思います。

委員 宮内 康子



「高南中での現在」と「将来の自分」

昨年10月、教え子である70歳グループと49歳グループの二つの異なった学校の「同期会」が開催された。社会の第一線での活動を一応終えたグループと、今、苦労真っ最中のグループとでの話題は異なるが、中学校時代の学校での諸行事や、係わった先生方や友達に関する思い出話が中心で、教師に知られなかった秘密の話も次々と飛び出してきた。秘密の話を嬉しそうに話す姿に好感をもつが、教師の私は知っていたことが多く、ニヤリとしながら聞き、楽しいひとときを過ごした。高南中学校卒業後の皆さんの成長は、今後、自分自身が会うあらゆる場面での努力や精進、周囲の人々から学び取る素直さがあって初めて成り立つと思うが、そのエネルギーの原点は、中学校時代の切磋琢磨によって培われるものと思っている。

高南中学校の生徒さんは、中学校時代に自分の好きなことを我武者羅になって見付け、失敗してもよいから全力投球して、毎日を積極的に生きることを考えてほしい。あなた方の成長に必要なことは、いつまでも心配し続けている両親や先生方であり、おおらかに交わっていた全ての友人と、そして、あなた方の活動を大きな期待をもって見つめている地域の人々との関わりであることも忘れないでほしい。

会長 堀内 一男



「安心・安全で、居心地のよい学校づくり」

杉並区教育ビジョン2022が施行されて2年目を迎えました。昨年度から「しあわせとは？」をテーマに、生徒、地域・保護者、教職員、そしてある時にはこれらの集団が混じって話し合いを行ってきました。その中で生徒からは、学校が「安心・安全で、居心地のよい場所」であってほしいという声が多く聞かれました。具体的に何か改善できることはないだろうかと尋ねたところ、「学校のきまり」の中で、改善できる点がいくつかあることが分かりました。そこで生徒会役員と規律委員会が中心となり、改正に向けた取組を昨年度の9月から丁寧に行い、昨年の2月に改正が実現しました。また、私服で登校できる私服デーを設けて欲しいとの提案もあり、今年度は7月からこれまでに4回、私服デーが実現しました。きっと他にも改善できる場所があるはずです。今後も、少しでも学校が「安心・安全で、居心地のよい場所」に近づけるよう、生徒、地域・保護者の皆さんの声を学校づくりに生かしていきたいと思います。

校長 立花 忠司

「高南中学生は次世代の宝！」

今年は、新年早々大災害に見舞われる重い年明けとなってしまいました。いつか起こるであろうとされる首都直下型地震。震度5強以上で開設される高南中学校震災救援所では毎年訓練を行っていますが、今年度も参加する中学生の活躍には目を見張るものがありました。高南中レスキュー隊は「人の役に立ちたい」という生徒の有志によるもので、地域にとっては頼もしい存在です。他の事例では、薬物乱用防止率先校として今年度東京都から高南中学校が認定されましたが、薬物乱用防止セーフティー教室でコーディネーターをしている関わりから生徒たちの事後感想文を読み、自分のことを見つめると同時に他者への思いやりを深く感じ取ることができ感銘を受けました。生徒たちの活躍や思いに触れる度に感動させられ、次世代の宝として今後の成長に期待するとともに、見守っていきたくと改めて感じました。

委員 和田 智美



「思い出深い中学時代のエピソード」

私は高南中の第6期生でした。小学校は杉十です。高南中を卒業して、当時の3年F組の同級生たちは、それぞれが別々の高校へ進学したのですが、高校2年の夏休みに高南中時代のクラスメイトを誘って、長野県中部の入笠山へ一泊の登山ハイキングを計画実行したことから、このグループとの親交が八十歳を過ぎた現在も続いています。このグループのガールフレンドの一人が私のお嫁さんになってくれて、来年は「ダイヤモンド婚」を迎えられることになりそうです。我々夫婦共通の親友達が、高南中の同期、同級生であったことが、どれほど人生を豊かなものにしてくれたかは、筆舌の尽くし難いところです。高南中在校時代に良き友人関係を得て、それをキープし続けることが出来れば、生涯の幸せが約束される身近な実例でありたいと願っています。

委員 志達 和雄

「1年の活動を振り返って」

高南中学校の学校運営協議会は、地域と共にある学校づくりを推進することがその役割です。学校経営方針の検討と承認、教育課程届の検討と承認、教員の任用に関して教育委員会又は校長に意見を述べることなど重要な業務があります。その他にも協議会では、教職員や生徒会役員との意見交換を行っています。その場では、生徒の皆さんがどうしたら学校全体がまとまっていけるのかをきちんと考えることも分かりました。今年度の道德地区公開講座では道德科の授業の参観の後、保護者の皆さんも参加し、有意義な協議が行われました。是非、様々な学校行事に参加し、生徒の皆さんの声を聞いてみてください。きっとご家庭では見られない新たな発見があると思います。

委員 大橋 哲



学校運営協議会

コミュニティ・スクール



地域と一体となって子供たちを育む『地域とともにある学校』を目指して、平成16年に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により導入された制度です。

地域住民や保護者等が一定の権限を持って学校運営に参画し意志決定を行うことにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させ、よりよい教育の実現に取り組む合議制の機関です。委員は教育委員会が任命する非常勤職員で構成されています。

令和5年度
学校運営協議会委員

会長：堀内 一男

委員：立花 忠司・志達 和雄・豊川 充子・小林 三津子・木村 房代・
大橋 哲・宮内 康子・和田 智美・石橋 淳子・後藤 郁子

今年度の協議

回	開催日	主な協議事項と活動内容
1	4月27日(木)	委員と教師の懇談会並びに新任教員の紹介 ・今年度の学校経営の方向性 PTA、高南会の活動予定について
2	6月30日(金)	行事(運動会・修学旅行・フレンドシップ等)についての改善点について
3	7月10日(月)	1学期の学校の様子 ・教務主任、生活指導主任からの報告と懇談
4	8月28日(月)	学年別、課題別に教員との懇談 ・高南祭の準備状況の把握
5	11月22日(水)	行事に対する意見・学習・体力調査の分析・教師の任用に関する意見の提出
6	12月18日(月)	生徒会役員から見た学校への要望 ・CSだよりの発行について
7	1月13日(土)	道德地区公開講座(教員、PTAとの協議会)
8	3月4日(月)	次年度の学校経営方針と教育課程の検討と承認
9	3月18日(月)	※協議予定・生徒の進路状況について・今年度の活動の反省 次年度に向けたスケジュール検討
行事参観		運動会・高南祭・合唱祭・中学校対抗駅伝・小中合同研修会授業参観